

児童青年期精神医学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	0人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	4人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	1人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	5人

1-2 教員の異動状況

高貝 就(特任教授)(H28.4.1～現職)
池谷 和(特任助教)(H28.4.1～現職)
吉川 久史(特任助教)(H26.4.1～H29.3.末日退職)
高橋 太郎(特任助教)(H28.4.1～H29.3.末日)
大隅 香苗(特任研究員)(H28.4.1～現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	発達障害を主とした児童精神科での少量薬物療法に関する実態調査
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	発達障害を主とした児童精神科での薬物療法についてはまだエビデンスの乏しい分野である。また、少量薬物療法の有効であるという報告があるが、いまだに検証がなされていない。このため、まず先行研究の精査およびわが国における児童精神医療の専門家の薬物療法に関する意識を調査することとし
	(3) 前年度までの状況	国内外の先行研究の渉猟、および国内のエキスパート・オピニオンの調査を行った。
	(4) 当該年度内の進捗	上記調査の成果を国内学会にて発表した。
	(5) 翌年度の方針と予想	調査結果の成果を論文化し専門誌に投稿予定である。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	児童精神科の入院治療に効果を与える要因
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	児童精神科での入院治療に影響を与える患児側の要因の評価に加えて退院時の評価を行うシステムを構築することで入院治療の効果を適切に評価することが可能となり、保護者や原籍校の教師に対して、入院治療の成果を示すとともに、今後の課題を提示することが容易になる。本研究では、これまで十分検討されてこなかった入院治療効果に与える要因と、治療効果の測定方法を検討することで、児童精神科入院治療の課題を明らかにして、解決策を提言する。

3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	3編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	2.275
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3) 総説数(うち和文のもの)	2編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4) 著書数(うち和文のもの)	1編 (1編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

論文数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Kameno Y, Suzuki K, Takagai S, Iwata K, Matsuzaki H, Takahashi K, Wakuda T, Iwata Y, Magata Y, Mori N. Mismatch in cerebral blood flow and glucose metabolism after the forced swim stress in rats. Acta Neuropsychiatr. 28:352-356, 2016.	0.760
2.	奥村明美, 高貝就, 土屋賢治, 浅野良輔, 西村倫子, 武井教使, 森則夫: 乳児期の睡眠と幼児期における神経発達についての前方視的検討. 子どものこころと脳の発達. 7: 46-54, 2016.	0.000

論文数(B)小計 2 うち和文 1 IF小計 0.760

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Kawai E, Takagai S, Takei N, Itoh H, Kanayama N, Tsuchiya KJ; HBC Study Team. Maternal postpartum depressive symptoms predict delay in non-verbal communication in 14-month-old infants. Infant Behav Dev. 46:33-45, 2016.	1.515

論文数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 1.515

(3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	高貝就: 発達障害と双極性障害 衝動性・攻撃性の視点から 小児期の発達障害と双極性障害. Bipolar Disorder. 14: 69-76, 2016.	0.000
2.	高貝就, 武井教使: 産科的合併症の評価尺度. 臨精医44: 105-110, 2016.	0.000
総説数(A)小計 <u> 2 </u> うち和文 <u> 2 </u> IF小計 <u> 0.000 </u>		

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著書数(A)小計 0 うち和文 0

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	下山晴彦, 村瀬嘉代子, 盛岡正芳 編著(分担執筆者): 必携発達障害支援ハンドブック. ISBN978-7724-1503-3 第1版、金剛出版、2016.	
著書数(C)小計 <u> 1 </u> うち和文 <u> 1 </u>		

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	7 件	370 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	1 件	1,000 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	0 件	0 万円
(8) 奨学寄附金	0 件	0 万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	高貝就(分担), 基盤研究(B), 自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症に共通する中間表現型と発症モデルの特定, 平成28年度～平成30年度,(研究代表者)子どものこころの発達研究センター 土屋賢治	15万円
2.	高貝就(代表), 大隅香苗(分担), 挑戦的萌芽研究, 強迫性障害のディメンションに関する学校調査, 平成28年度～平成29年度	80万円
3.	高貝就(分担), 挑戦的萌芽研究, 不注意症状の計測と臨床診断:注視点検出技術の新たな応用, 平成28年度～平成29年度,(研究代表者)子どものこころの発達研究センター 土屋賢治	15万円
4.	大隅香苗(分担), 基盤研究(C), うつ病に対する集団行動活性化療法の効果検討とプログラム開発, 平成27年度～平成29年度,(研究代表者)精神医学 望月洋介	5万円
5.	大隅香苗(分担), 挑戦的萌芽研究, EMDRによる外傷後ストレス障害の治癒機転に関する脳画像研究, 平成27年度～平成29年度,(研究代表者)精神医学 井上淳	5万円
6.	吉川久史(分担), 基盤研究C, EMDRの作用メカニズムに関する研究, 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)兵庫教育大学学校教育研究科教授 市井雅哉	10万円
7.	高橋太郎(代表)ミクログリア活性化に対する光療法の開発-動物モデルを用いた基礎的研究-, 平成27年-28年度、	240万円

(5) 他政府機関による研究助成

1.	高貝就, 浜松市, 浜松市子どものこころの健康づくり調査研究事業, 平成28年度	1000万円
----	------------------------------------------	--------

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	0 件
2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
3) 学会座長回数	0 件	0 件
4) 学会開催回数	0 件	0 件
5) 学会役員等回数	0 件	0 件
6) 一般演題発表数	0 件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績